

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 こども施設 住宅
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 補助金 内閣府 国土交通省 厚生労働省
 〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 建物状況 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 こども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

吉祥寺東コミュニティセンター 九浦の家は、吉祥寺東コミュニティ協議会が市から運営を任されている、武蔵野市民の誰もが自由に利用できる多目的施設である。日本画家の野田九浦氏のアトリエ跡地に建設された新築施設であり、市民の趣味や交流活動の場として利用されるほか、協議会が主催するイベントなどの事業の拠点となっている。

■施設概要

所在地：東京都武蔵野市吉祥寺東町1丁目12番6号

施設種別：コミュニティセンター

運営主体：ボランティア組織

「吉祥寺東コミュニティ協議会」

敷地面積：772㎡

延床面積：260㎡

運営開始：1978年4月22日

開館時間：9:30~21:30

休館日：第4水曜日、年末年始

訪問者：山田あすか、倉斗綾子

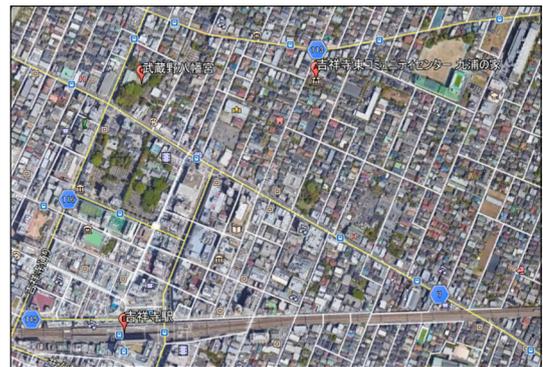


図1. 立地周辺 (googlemap から引用)

JR 吉祥寺駅徒歩7分、周辺には保育園や小学校などに囲まれた住宅街に囲まれた場所に位置している。

■運営概要

吉祥寺東コミュニティセンター九浦の家は、吉祥寺東コミュニティ協議会が市から運営を任されている公設民営のコミュニティセンターである。武蔵野市におけるコミュニティセンターは、「武蔵野市民の誰もが自由に利用できる、市民運営の多目的施設」とされており、各地域のコミュニティ活動や情報発信の拠点として利用される^{注1)}。コミュニティセンターの維持費や活動補助金は武蔵野市が負担している。この九浦の家は、このほど開設約40周年を迎えた、地域に長く親しまれるコミュニティ活



写真2. 九浦の庭園

日本画家の野田九浦のアトリエ跡地から元の庭を残して建設したため、野田邸宅の植栽を生かした、古き良き武蔵野らしさを感じる庭園が残っている。

注1) 武蔵野市, コミュニティセンター, <http://www.city.musashino.lg.jp/shisetsu_annai/shisetsu_bunka/community/index.html>, 参照 2020.1112



写真3. ロビー

コミュニティセンターの入口近くにあり、受付の目の前にある、全12個の椅子と3つの机、本棚からなる予約を必要としないフリースペースである。



写真4. 和室

広さ18畳(27.8㎡)、収容人数30名。テレビが設置されている。集会や年間行事である百人一首大会に使用されている様子が見受けられた。

動の拠点となっている。施設利用に際しては、使用の1か月前から当日まで、センター窓口の受け付けに利用を申し出る仕組みである。

■活動内容

コミュニティセンターでは利用者への会場の提供の他に、運営主体による主催事業があり、海外への興味喚起を図る集会や小倉百人一首競技かるた大会、フリーマーケット、コンサートなど多岐に渡り、これらは地域住民たちのよりどころとなっている。また、盆踊りや大きな庭で夏の虫さがし、防災会などの地域イベントの拠点としても利用されている。これらの活動内容は「九浦の家だより」として年間4回、1982年から現在まで、地域の出来事や情報、話題や問題と共に情報誌として発行されている。

■建築について

吉祥寺東コミュニティセンター 九浦の家は、日本画家の野田九浦氏のアトリエ跡地に建設された。また、市側が中規模館の建設を奨めたが、九浦の家の佇まい保存のために、小規模館としての建設が地域の住民の自主的決定により進められたという経緯がある。そのため、野田

見取り図

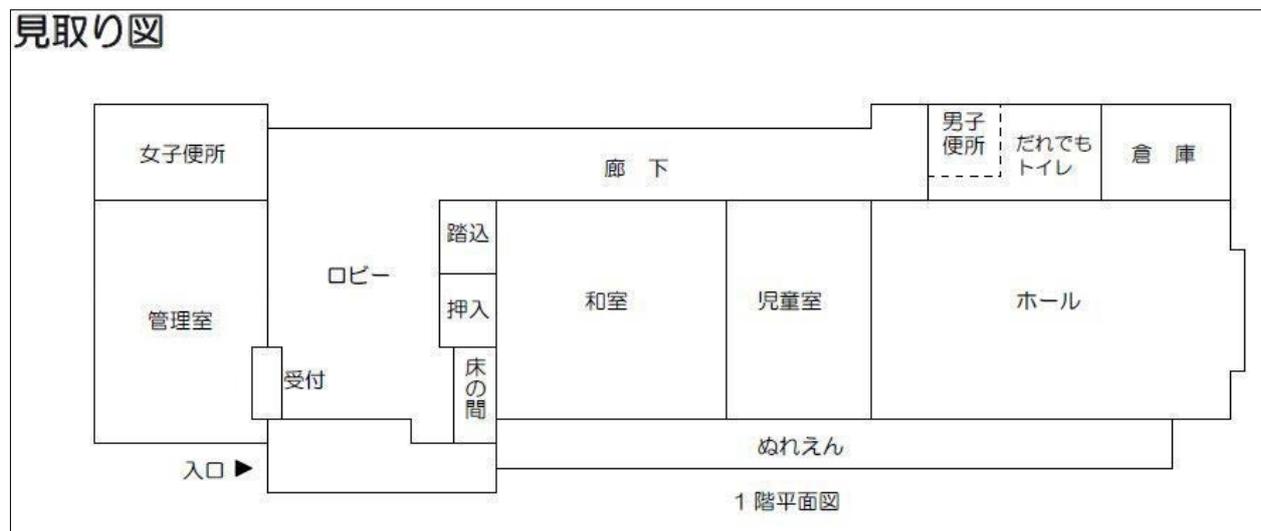


図2. 吉祥寺東コミュニティセンター 九浦の家の平面図

この図からも和室、児童室、ホールの3室から濡れ縁により繋がっていることが見受けられる。また、廊下には地域の歴史のようなものを飾っている。

邸宅の植栽を生かした、古き良き武蔵野らしさを感じる庭園が敷地内に残され、他のコミュニティセンターに比べても特徴のあるたたずまいである。

利用者が利用できる所室は以下の通りである。

1) ロビー (写真.3)

コミュニティセンターの入口近くにあり、受付の目の前にある、全 12 個の椅子と 3 つの机、本棚からなる予約を必要としないフリースペースである。

2) 和室 (写真.4)

広さ 18 畳 (27.8㎡)、収容人数 30 名となっており、テレビが設置されている。集会や年間行事である百人一首大会に使用されている様子が見受けられた。

3) 児童室 (写真.5)

広さ 23㎡、収容人数 12 名。こどもが遊ぶため床材は柔らかい素材に張り替えられており、遊び道具や児童用の本棚、肋木が設置されている。

4) ホール (写真.6)

広さ 55㎡、収容人数 60 名。コミュニティセンター内で最も広い空間であり、地域住民の交流やセミナー、運動会などに使用されている様子が見受けられる。鏡張りであることが有効。

また、室 2)~4) は濡れ縁 (写真.7) によって繋がっており、窓を開けた際に移動が可能である。この濡れ縁を介して、どの部屋からも庭園が眺められ、ここから庭園に出入りができるようになっており、庭園を尊重した建物配置計画の考え方が反映されている。

(作成者：東京電機大学 加藤瑞基 2020.05,
校正：山田 2020.1112)



写真5. 児童室

広さ 23㎡、収容人数 12 名。こどもが遊ぶため床材は柔らかい素材に張り替えられており、遊び道具や児童用の本棚、肋木が設置されている。



写真6. ホール

広さ 55㎡、収容人数 60 名。コミュニティセンター内で最も広く、地域住民の交流やセミナー、運動会などに使用されている様子が見受けられる。



写真7. 濡れ縁

濡れ縁によって 3 室が繋がっており、ここから庭園を眺められる。

参考文献

- 1) 武蔵野市公式 HP, <http://www.city.musashino.lg.jp/shisetsu_annai/shisetsu_bunka/community/1000611.html>
- 2) 吉祥寺東コミュニティセンター 九浦の家, <<http://kihigashi.sakura.ne.jp/>>